

最も長い9日間の始まり



おかわいらし
白岩孝夫
おかわいらし
南陽市長(山形県)

プライベートタイムは災害対応へ

ゴールデンウィークの5月4日。前日に旧成人式である「二十歳のつどい」を終え、公務がない休日、まさに貴重なプライベートタイムを読書でのんびり過ごしていた昼下がり突然、それは起こりました。

「12時55分ごろ、南陽市宮内の秋葉山で林野火災との通報があり消防車両が出動しています」と第一報のLINEが私に入ったのは、13時49分でした。

「消せそうですか？私も現地確認した方がいいですか？」と打ち込んで送信したものの、それに対する返信はなく、心配で現場へ。14時21分に現地到着。すでに現場指揮本部が設置され、南陽消防署員と消防団員が慌ただしく活動していました。ただし現地に水利がなく、ジェットシューター(水

を入れた背囊はいのう)を用いた火災防御の準備をしており、その時点で既に消防が山形県の防災ヘリを空中消火のために要請していました。

問題は、県の防災ヘリによる消火で対応できるのかどうかでした。4年前に市内の別の山で林野火



市民を不安に陥れた夜間燃え盛る山の火

災があり、県の防災ヘリでは消火しきれず、私は自衛隊の災害派遣を要請した経験がありました。県と自衛隊では、空中放水能力に約10倍の差があり、もし県の防災ヘリで対応不可能であれば、一刻も早く自衛隊に災害派遣を要請しなければなりません。

県を通して自衛隊の災害派遣を要請できるのは、市長だけです。

出火地点に赴こうとしている消防署員を捕まえて頼みました。

「その目で見ても、防災ヘリで消せるのかどうか、確かめてください。その状況によって、自衛隊の災害派遣を県に要請するかどうか、私がここで決めます」

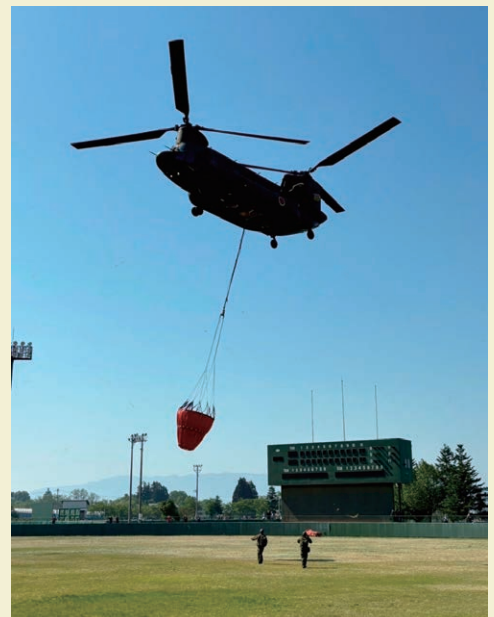
約10分後、「この火の勢いでは…無理です」との答えに、即断しました。

「14時33分自衛隊を要請する。このことは現地指揮本部での判断である」

長かった9日間の林野火災対応。これが始まりでした。

鎮圧と鎮火への遠い道のり

4日、山形県や隣県の防災ヘリが空中消火を実施しましたが、焼損面積は一気に40〜50haに拡大。この日の消火は日没とともに終了。17時、市災害対策本部を設置。17時11分、山形県知事が自衛隊神町駐屯地の第6師団に災害派遣を要請。



バケツを付け離陸する自衛隊大型輸送ヘリ

自衛隊による調整で、木更津駐屯地の第1ヘリコプター団から大型輸送ヘリCH-47チヌークを投入することが決定。県の防災ヘリが搭載できる空中消火用水500リットルに対し、チヌークは5000リットル搭載可能。それだけに離着陸には広大で安全な場所が必要で、それに対応できる施設は限られており、市民体育館や市営野球場などが候補に挙がりました。

折しもゴールデンウィークの真っ只中。それらの施設では各種大会が行われていたが、「申し訳ないが、有事のため災害対応を優先。大会は全部中止してもらい、消火に当たるヘリの離着陸拠点とする。施設利用団体には丁寧に説明をお願いします」と職員に指示し、施設の全面利用禁止を決定。

また、大型ヘリが取水できる地点も限られており、候補に挙がったのは隣接する上



消火活動に出発する消防団員を激励

山市に所在する県管理の前川ダム。そこでは民間の釣り大会が開催されていて多くの釣り人が来ていましたが、チヌークが搭載できる5トンの水が何らかの事故で落下した場合に備え、釣り大会の主催者に事情を説明し、5日以降大会を中止してもらうことに。ヘリ消火の水利として使用する許可を県と調整しつつ、山市に依頼し、朝5時から日没まで、山市職員の方にダム周辺への立ち入りを規制していただきました。



住宅のそばまで近づく火の手と自衛隊ヘリ

た。その他、運航ルートにかかる県道も封鎖し、これらの規制はヘリによる消火が終わる7日まで続きました。

焼損面積は4日40
50 ha、5日95 ha、
6日137 haと拡大

8日からは主戦場は地上へ。平日にも関わらず消防団員160名が消防署員と出動し、約10kgの水が入った重いジェットシューターを背負って、起伏の激しい山中へ分け入り、ローラー作戦で残火処理に当たってくれました。朝に出動し、夕方に帰ってきた団の幹部は、「消防団に入って、今まで一番過酷な活動だった」と話していました。9日以降も日の出とともに山中から上がる白煙の位置をドローン部隊が特定し、消防署員が山に入って残火処理。発災から9日目の12日18時、ようやく鎮火に至りました。

していききました。5日には火が住宅まであと400mに迫り、避難指示を148世帯410人に発令しましたが、空中や地上からの放水で予防線を張り、風向きが変わる傍にも恵まれて、住宅地への延焼は免れました。発災4日目の7日には拡大をほぼ食い止め、現場大隊長の消防署長が鎮圧を認定。それに伴い市長が県に対し自衛隊の撤収を要請。



ドローンで確認した立ちのぼる白煙



急峻な斜面で残火処理する消防署員

この火災で消火に力を尽くしてくださった消防団、消防、自衛隊、防災ヘリで消火活動いただいた山形県・福島県・宮城県・秋田県・岩手県、ご協力いただいた山市や警察、ご心配いただいた市長の皆さまなど関係各位に心から敬意と感謝を申し上げます。

そしてプライベートタイムへ

山形県庁や自衛隊などへのお礼と報告を行い、5月中旬ごろにようやくプライベートタイムが戻ってきました。と言っても夜、寝る前のわずかな時間ですが、4日の発災前の読書の続きです。

読んでいたのは『キングダム』。漫画です。ゴールデンウィークに既刊71冊を古本で大人買いし、1回全部読み、2周目も終え、いま3周目の46巻を読んでいます。あとはたまに家族でラーメン屋さんへ。それが私のプライベート・タイムです。